

中部の

エネルギーを  
築いた

人々

福沢桃介生誕150年記念<sup>⑭</sup>

福沢桃介が大同電力(株)時代に  
建設した遺構・記念碑

(その2:御嶽謝恩塔の建立から三浦貯水池の計画まで)

## 御嶽謝恩塔の建立

福沢桃介はその事業の畢生の電気事業成功謝恩の意味合いを持って、1926(大正15)年8月に木曾御嶽山上に謝恩塔を建立した。

謝恩塔は御嶽山登山道黒沢口5合目の急坂を登り切った扇森の平地に建てられ、北に乗鞍、槍、穂高、常念の峻嶺を望み、東は駒ヶ岳、赤石の高峰に相對し、遙かに富士の靈峰を中間に望み、西方には白山、立山の弧起を見るなど展望絶佳の地に建てられた。

塔の高さ40尺(約12m)、八角青銅製で、上部正面に「謝恩塔」の3文字を浮かし、裏面に下記の碑文を記した銅板が埋めこまれている。

### 【御嶽山謝恩塔碑文

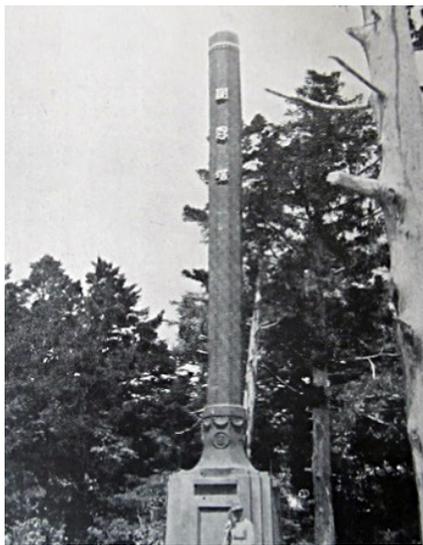
海拔10,109尺(=標高:3,067m)巍々として千山萬岳の上に聳え、三峰並峙して其勢直ちに帝座に迫り、日月を巡らして昏曉を割りたんとす。試みに頂上に立て眼を放ては千里雲煙掌中に帰し白山昂然として弧起し、而して乗鞍穂高常念の峻嶺は北の方遠く烏帽子御子蓮華地蔵白馬等の諸岳連なり甲斐駒ヶ岳八ヶ岳白峰山木曾駒ヶ岳は近く東に

聳え、遙かに浅間の噴咽天に朝するを見る、更に眸を南方に転すれば漂渺として富岳の雲咽の表に聳ゆるを

見、赤石山又其雄姿を現す、而して正南前衛のごとく峙は惠那山なり、すなわち日本中枢の山系の太宗として、天地秀靈麗の気を鐘めいとくかく古徳赫赫古往今民衆宗信の本体たるもの之を



増田次郎:大同電力(株)2代目社長  
[1868(慶応4)年~  
1951(昭和26)年  
出典:大同電力株式会社沿革史]



御嶽謝恩塔

(出典:大同電力株式会社沿革史)

御岳山と為す、若夫れ目を転じて俯瞰すれば兒山孫岳起伏して波濤の如く峽澤參三自ら幽壁をなす、是れ所謂基礎の九十九谷なり、而して本邦巨川の一なる木曾川は実に源を此処に発し到る處の湧泉其地形に應じて瀾流となり飛瀑となり大小凡百集注して本流となる行くゆうつりんかんようたはた<蔚林を涵養し田圃に灌漑し、或は奇岩怪石に激して百雷を轟かし或は紆淵碧潭瀝みて魚竜を潜躍

せしむ、所謂千巖秀を競ひ萬壑流を争うものに遮幾し真に是れ天下の絶勝無二の壯觀なり、  
輓近科学の進歩は水力電気の発展を促し大同電力株式会社が此の水系に絶好の地点を発見して発電工事を遂行するや万古涓涓の水は化して光となり力となり<sup>たど</sup>壺に名古屋を中心として付近百里にその恵沢を<sup>こうじゆん</sup>洽潤するのみならず

大阪の産業もこれが為に活躍し東京の街衛もこれに依りて不夜城を出現す。靈嶽の靈験广大無辺にしてその功德や深甚無量なり、余等斯業に従ふもの景仰の念自ら禁する能わす、茲に同志<sup>どうし</sup>胥謀<sup>あいはかり</sup>て此塔を建設し<sup>いささ</sup>聊<sup>ひしん</sup>か微忱を表す、嗚呼赫赫たる靈嶽<sup>あ</sup>万古<sup>あ</sup>に屹留<sup>あ</sup>す、其徳其威是れ豈に<sup>く</sup>區區<sup>く</sup>言辭の能く<sup>けい</sup>罄<sup>けい</sup>す所ならん哉】

## 大同電力解散までの電源開発

福沢桃介は腎臓摘出手術後の体調不良などから、1928(昭和3)年に大同電力社長を辞任するなど実業界から引退、1938(昭和13)年2月15日脳梗塞で亡くなった。

桃介引退後、二代目社長に増田次郎が1939(昭和14)年4月に解散するまで就任し、笠置発電所、寢覚発電所、木曾川最上流の大滝川をせき止めた三浦貯水池の建設に取り組んだ。

### 1 笠置発電所



笠置発電所全景

(資料提供：関西電力株式会社東海支社)

笠置発電所は昭和9年工事着工、昭和11年11月完工した。この発電所で初めてエレベータを設置した。出力は当初35,500kWであったが翌年使用水量を増加して40,500kW

に増加し大阪方面に送電した。

#### (1) 笠置発電所紀功碑

題字は「天壤無窮=てんじょうむきゆう=天地と同じよう永遠に続くことの意」稲江題と刻まれている。稲江というのは2代目社長増田次郎の雅号で、出身地の駿河志太郡稲川村から付けたと思われるである。

この碑文には「当初10,000kW程度の水路式を計画していたがダム式に変更し40,500kWに変更した。工事期間2年余にわたり昼夜兼行事で進め、この間数度の洪水に見舞われ、昭和10年の厳寒の候に予期せざる出水のため堰堤仮締切が決壊、夏期には十数年来の大洪水に見舞われたが、堪忍辛苦の未完工することができた。水力発電事業の隆盛は天地と同様に悠久であり極まることがない。ここに碑を建て概要を刻み、後の世に送るものである」と石川栄治郎建設所長名で記されている。

#### (2) 笠置発電所殉職慰霊碑

工事期間中1,300人の負傷者と19人の犠牲者を出したことに碑を建て慰霊している。

#### (3) 藤波橋

笠置発電所に架かっていた橋は大同電力常務取締役・藤波収の名字から藤波橋と命名されたが、現存しない。

## 2 寝覚発電所



寝覚発電所全景  
(資料提供：関西電力株式会社東海支社)

寝覚発電所はJR中央線上松駅の対岸あり、本館建物は白亜館の威容を誇っている。この発電所は東京、関西にも送電できるよう50・60Hzに短時間で容易に切換えができるように設計された。1936(昭和11)年9月に工事着工、1938(昭和13)年9月完成した。当初の出力は32,600kWであったが翌年使用水量を増加して35,000kWになった。

### (1) 寝覚水力発電所紀功碑

題字は「山色水光傳功永=さんしょくすいこうをとこしえにつたう=山の色、水の光、この自然を永く伝えようの意」である。

この碑文の中に「この碑には金属回収から免れたエピソードが残っている。

### (2) 金属回収から免れたエピソード

この碑文を破壊しようとする憲兵に対して「これに相当する材料を提供するから、私の金の懐中時計も差し上げますと言って哀願し、改修を取りやめさせたというのである。この碑は現在木曾川電力資料館にレプリカが展示されている。

## 3 三浦ダム・三浦貯水池



三浦貯水池全景  
(資料提供：関西電力株式会社東海支社)

三浦ダムは木曾川水系王滝川上流部に建設されたダムである。1935(昭和10)年10月に大同電力により工事着工、1939(昭和14)年4月、日本発送電㈱に引継がれ1942(昭和17)年に湛水を開始した。

三浦ダムは直線型重力非越流型コンクリートダム(①堤高：83.2m ②堤頂長：290m ③総貯水量：6221万 $\text{m}^3$ )で、建設当時国内最大であった。

この三浦貯水池からの放水は下流全部の発電所に湯水補給として利用すると、その発生電力は116,000kW増強できるものであった。さらに下流の洪水緩和や灌漑などに寄与するものであった。

また、ここ瀧越は木曾「三浦氏」の発祥の地で、住民は三浦姓を名乗っており三浦太夫の社がある。

## （参考）木曽川水系発電所の概略図

木曽川は長野県木曽村の鉢盛山（標高：2,446m）南方を水源とし、御嶽山から流れてくる王滝川と合流したのち、木曽の棧や寢覚ノ床などの渓谷を形成、岐阜県中津川市、可児市との境界で飛騨川と合流する。そして犬山市から濃尾平野に出て伊勢湾に注ぐ延長229kmの1級河川である。

この木曽谷に建設されていった大同電力㈱の水力発電所は資料1と概略図の通りである。

### 資料1：大同電力時代に建設した水力発電所

発電所名	竣工年	当初出力	記念碑等
賤母発電所	1919(大正8)	16,300	賤母発電所紀功碑、水槽扁額
大桑発電所	1921(大正10)	12,100	建屋に木曽電機興業の社章、下出橋
須原発電所	1922(大正11)	10,000	満寿太橋、木曽川電力資料館、桃介公園
桃山発電所	1923(大正12)	24,600	桃山発電所紀功碑があったコンクリート遺構
読書発電所	1923(大正12)	42,100	近代化遺産(読書発電所、柿其水路橋、桃介橋)
大井発電所	1924(大正13)	48,200	大井発電所紀功碑、「独立自尊」の碑
落合発電所	1926(大正15)	14,700	村瀬橋
笠置発電所	1936(昭和11)11月	40,500	笠置発電所紀功碑、殉職慰霊碑
寢覚発電所	1938(昭和13)年9月	35,000	寢覚水力発電所紀功碑、殉職慰霊碑
三浦貯水池	1942(昭和17)10月	116,000	「三浦太夫」の社、殉職慰霊碑

### 資料2：水力発電所の概略図



(寺澤 安正)